

# あたらしい えほん・児童書

あらたに市立図書館の蔵書に加わった絵本や児童書を紹介します☆

## 『もしも家や学校にいられないと思ったら』

国崎 信江／監修 岩崎書店

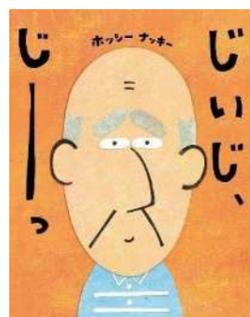
もし家族から虐待されたら、学校でいじめにあったら、あなたならどうしますか？ 大切な命を守るための最適な方法をクイズ形式で学んでいきます。



## 『じいじ、じーっ』

ホッシーナッキー／作・絵 ポプラ社

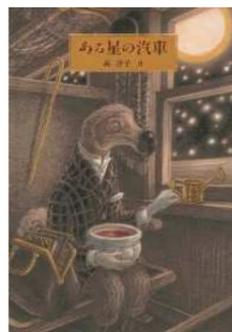
おじいちゃんと孫が散歩にいきます。おじいちゃんは孫が何をしてもじーっとして見えています。犬にびっくりしても、転んでも、じーっ。本を読み進めていくと、おじいちゃんと孫の関係にほっこりします。



## 『ある星の汽車』

森 洋子／作 福音館書店

人類の都合で絶滅した動物たち。この汽車に乗っている動物たちは悲しい運命にあったのです。一度絶滅したら、もう二度とよみがえらない。命や自然環境について考える絵本です。



## 『あの、ここどうぞ。』

くすのき しげのり／さく こがめ たく／え 偕成社

席を譲るのがちょっとはずかしい。そんなときありますよね。この本の女の子は、勇気を出して席を譲ろうとするのですが、うまくいきません。でも……。みなさんならどうしますか？



山形市立図書館



第 62 号  
2026 年 冬

発行：山形市立図書館 山形市小荷駄町 7-12 TEL：624-0822

幼児から小学生のみなさん、絵本や児童書に関心のあるみなさんのための「としょかん Kids」という本の新聞です。



## りぶ活 y a m a g a t a メンバーによる オリジナル紙芝居 よみきかせ

去年からスタートした「りぶ活 y a m a g a t a 注」。今年は4人の中学生が参加してくれました。

みんなで話し合い、今年はオリジナル紙しばいを作って読み聞かせをすることとしました。チーム名は、全員の好物から「チームしゃけ(鮭)」に。自分たちでお話を作り、絵を描いて紙しばいをつくることは簡単なことではありません。それでもみんなで力を合わせ完成したのが、「世界で一つ」のオリジナル紙しばい『伝説のいくら』です。

そして、10月25日に読み聞かせを図書館でしました。おおぜいの方が参加され、お話を楽しんだようです。メンバーのみなさんの生き生きとした読み聞かせで、今年の活動を締めくくりました。



### 「りぶ活yamagata」について

図書館における部活動の地域移行・地域連携事業。図書館「Library(ライブラリー)」と部活を合わせた言葉で、本や図書館についての体験や交流を通して、楽しみながら学ぶ探究活動です。



# ぼくとわたしの おすすめの本



この本は、主人公の直紀がふしぎなものたちと出会い、様々な体験を通して成長していく物語です。

ふしぎなものたちとは、直紀のおじさんが借りているれい気の強い古い一軒家に集まってくるようかいや化け物のことです。その化け物に対して初めはびっくりしていた直紀は、少しずつ慣れていき、ふしぎなもののお世話をするようになります。

ある日、おじさんの家の庭に「すけている人」が現れ、おじさんとねこのシロをツクバイに引きずりこんでしまいます。直紀は、化けねこの水野さんと協力して助けようとする中で、鏡池のひみつも知っていきます。

現実の世界には起こらない不思議な出来事がおもしろいので、ぜひ読んでみてください。

山形市立滝山小学校 五年 猪股 なお

直紀とひみつの鏡池

山下みゆき作 もなか絵 静山社

新春恒例!

# 本の福袋

6年目となる“本の福袋”。今年は小学校3校・中学校2校・高校4校から79袋も協力してもらいました。これまでで最高の数です。

図書館でつくったものと合わせて、133袋を1月4日～11日まで貸し出しをしました。とっても人気で、最後はほとんどなくなりました。

来年も“本の福袋”をする予定です。皆様のご協力、お待ちしております!

## こんな本を選んでもらいました!

袋のタイトルと中身の本、その一部を紹介します。

### 巳年から午年へバトンタッチ!

- 『十二支のしんねんかい』
- 『ながいながいへびのはなし』
- 『スーホの白い馬』

### 青春

- 『夜が明けたらいちばんに君に会いに行く』
- 『栞と嘘の季節』
- 『青くて痛くて脆い』

### ユニークないきもの世界

- 「わけあって絶滅しました」
- 「ずるいいきもの図鑑」
- 「ブラックないきもの図鑑」

### かわいい本

- 『じぶんをすきになるおまじない』
- 『ふたりはとっても本ずき』
- 『ルルとララのきらきらゼリー』



## ライオンのごじとどろごじやんぼん

竹田津実作 あべ弘士絵 偕成社

ライオンがヌーの母親を食べたことから、裁判が始まります。

ヌーの子がうったえます。

「お母さんが殺され、食べられた」と。

ライオンはうったえます。

「殺してほしいと言ったから」と。

他の動物たちもうったえます。

「ライオンのせいで仲間の数が増えない」

「でも、だから食べていけない」

動物たちがたがいの意見をしっかりと聞き、自分の意見を比べているのがよく分かります。

自分ももしヌーやライオンの立場だったら、と考えさせられます。

人と接する時、相手の意見を聞き入れる、立場を考えるきっかけになる一冊です。

山形市立滝山小学校 六年 鈴木 るな

よ読みたいときが 開館時間、  
よ読みたい場所が 図書館です!



こちらから

お家でも、学校でもスマートフォン、タブレットなどがあればいつでもどこでも本を読むことができます。

みなさんも学校で、授業で利用したことがあるでしょうか?ぜひ、のぞいてみてください!

電子書籍サービス  
12月3日スタート